

地域包括支援センター名：中津川市地域包括支援センター

(担当地区 西・南・東地区・市内全域)

目指す地域の姿

誰もが地域や家庭で安心して暮らすことができるよう、一人ひとりにあったサービス・支援が受けられ、年齢、障がいの有無に関わらず、多様な交流が行われ、楽しさや生きがいを実感できるまち

1. 現在の取組

地域課題	認知症の地域理解が進んでいない
取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・ 認知症の理解を進めるため、認知症講演会・認知症サポーター養成講座・認知症カフェを開催 ・ 認知症の予防から発症、末期まで認知症の進行に合わせてどのようなサービスを受ける事ができるかを示した認知症みまもりガイドの作成 ・ 認知症みまもりの「わ」ネットワークの構築のため専門家によるコーディネーター会議や地域包括・在宅介護支援センター相談協力員*1) 懇話会を実施 ・ 認知症を地域で支えるしくみ作りとして各地域のモデル地区で地域支え合いマップ作りを実施

地域課題	8050 問題（高齢者と引きこもりの子どもの家族の問題）で経済的搾取など的高齢者虐待につながるケースがある。
取組み	・ 高齢者・子どもそれぞれの支援方法について多職種（介護・福祉・医療関係者）で学ぶため、高齢者虐待防止研修会を開催した。

2. 今後の予定

地域課題	高齢者の交通手段がない
取組み案	・ 市主催の介護予防事業でコミュニティーバスを利用する場合の利用料補助について担当課と検討中

地域課題に対する取組の報告

地域包括支援センター名：中津川市瀬戸の里地域包括支援センター（担当地区 苗木地区）

目指す地域の姿

「困った・大変！という受け止め方の転換
認知症・要介護・元気な人も安心して、お互いに優しい住みやすいまち苗木」
地域住民みんなが相談先を知っており、困りごとや不安を感じれば相談や報告が行き交い、1人で出歩いても地域の見守りと連絡体制があって、対応に繋がっていく。
地区の各所に気軽に集まれる場所と行きやすい交通手段がある。

1. 現在の取組

地域課題	「認知症の方の一人歩き」への理解と対応が途切れてバラバラに行われている。相談先の周知不足と関係者間の情報共有がなされていない。
取組み	・認知症への理解の為の「サポーター養成講座」開催や、認知症カフェや介護予防教室で、「症状と対応のミニ講座」を開催 ・地域ケア会議や民生委員会を活用し情報共有と対応パターンの検討

地域課題	立場が異なる中での守秘義務・情報共有の困難さがある。
取組み	・「民生委員とケアマネジャー・介護事業所も含めた交流会」を継続開催中、事例を使った各立場での支援業務の確認及び、理解と信頼へ繋がる関係作り

2. 今後の予定

地域課題	地区ごとに集まれる場所に差がある。ファミリーサポートセンターやタクシーを使う程の距離ではない公民館程度の外出の手段がない。
取組み案	・介護予防教室・認知症カフェを地区ごとや、協力依頼を実施した施設事業所・高齢者の集まる喫茶店等で巡回開催する。 ・当該法人の福祉車両での送迎協力

地域課題に対する取組の報告

地域包括支援センター名：中津川市ひだまり苑地域包括支援センター（担当地区 坂本地区）

目指す地域の姿

高齢者のみ世帯において特に前期高齢者（65歳～74歳）が多く、今後支援が必要な高齢者が増加すると推測される地域である。高齢者支援について、社会資源・各高齢者支援に関する団体の活動状況の把握が十分でないため、各関係機関団体と連携をとり、地域包括支援センターとして地域包括ケアシステムの構築を果たしていく。

1. 現在の取組

地域課題	地域包括支援センターと高齢者支援に関わる機関との連携が少なかった
取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・坂本地区社会福祉推進協議会（地区社協）*2) と連携して各地区のサロンに関わった。 ・地域の居宅支援ケアマネジャーとの連絡会を開催し、ケアマネジャーのニーズを把握した。 ・民生委員会において地域包括支援センターの周知を行い、継続した連携の必要性の理解を求めた。 ・地域包括支援センター相談協力員*1) 懇話会にて、地域包括支援センターの役割を詳細に説明した。 ・介護予防サポーターとの交流会を実施した。（介護予防教室の運営などについて）

地域課題	高齢者の閉じこもりや要介護者の増加が予測される地域であるが高齢者の交流の場が少ない。
取組み	<ul style="list-style-type: none"> ・予防教室の会場を増設した。 ・高齢者の実態把握訪問を充実した事により高齢者個々の地域での交流の場を把握している。 ・坂本地区社会福祉推進協議会と連携して地域のサロンの把握をした。

地域課題	地域の居宅介護支援ケアマネジャーとの連携会議の中で地域高齢者の食や買い物に関するニーズが高いが地域で使えるサービスの情報が乏しいことが分かった。
取組み	地域で使える食や買い物に関するサービスのリストを作成し地域のケアマネジャーなどに配布した。

2. 今後の予定

地域課題	地区高齢者のニーズ把握と各団体との共有が不足している。
取組み案	<ul style="list-style-type: none"> ・居宅ケアマネとの連携会議の継続 ・民生委員、相談協力員との連携の強化 ・各関係団体（医療、介護、福祉、地区の各団体）との連携

地域課題に対する取組の報告

地域包括支援センター名：中津川市ゆうらく苑地域包括支援センター

(担当地区 落合地区・神坂地区・瀬戸区)

目指す地域の姿

子どもも障害がいのある方も高齢者も住み慣れた地域で安心して生活ができる地域づくりをしていく。

1. 現在の取組

地域課題	認知症の地域理解が進んでいない。
取組み	<ul style="list-style-type: none">・今年度、認知症サポーター養成講座を担当地域内対象で2回実施・認知症に関する取組み（相談先）一覧を機関紙で全戸配布・介護予防事業や出前講座で認知症について啓発を行う。・認知症カフェを開催している。

地域課題	男性の参加しやすい場
取組み	<ul style="list-style-type: none">・男性のみ参加できる介護予防事業の実施・自分が出せる場が必要。今行っている介護予防事業の強化を図っていく。

2. 今後の予定

地域課題	免許の返納が進まない。
取組み案	<ul style="list-style-type: none">・警察が相談協力員にもなっているので、介護予防事業で講話をお願いしたり、啓発を行ったり、出来るところから取組みを行いたい。

地域課題に対する取組の報告

地域包括支援センター名：中津川市シクラメン地域包括支援センター（担当地区：阿木地区）

目指す地域の姿

地域で安心して住み続けるために地域の強みや課題を地域内の諸団体と共有して、必要な手立てを創り出していく。

1. 現在の取組

地域課題	地域の行事(老人クラブなど)に男性の参加が少ない。
取組み	・地区社協や老人クラブなど各団体と連携を図り、介護予防事業のメニューの中に、コミュニケーション麻雀など男性に関心がありそうなものを取り入れている。

地域課題	口腔内の健康に心配な人が多い。
取組み	・歯科医師の講話などを各地区で開催

地域課題	生活支援のサービス利用状況など地域で周知できると良い。
取組み	・生活支援のサービス利用状況を生活支援コーディネーターや協議体* ³⁾ を通じ、地域に報告

2. 今後の予定

地域課題	地域ケア個別会議、地域ネットワーク会議などで挙げた各課題 (独居で見守りが必要な方の把握・認知症の方が参加できる場がない等)
取組み案	地域各種団体を巻き込み検討、取組み

地域課題に対する取組の報告

地域包括支援センター名：中津川市北部地域包括支援センター

(担当地区：山口・坂下・川上・加子母・付知・福岡・蛭川地区)

目指す地域の姿

地域の困りごとを地域で考え、解決できる仕組みづくりを地域住民と考えていく。

1. 現在の取組

地域課題	複数の問題を抱える世帯に対しての支援体制づくり
取組み	・多職種で支援できるネットワークづくり（地域ケア会議の開催、ケアマネジャーと同行訪問、専門機関との橋渡し）

2. 今後の予定

地域課題	住民が地域のことに関心を持ち、思いを共有し考えていける場作り
取組み案	・地域包括ケアネットワーク会議の充実（住民主体で取り組んでいける仕組みづくり） ・他地域での立ち上げ（現在、蛭川地区・付知地区で開催）

- * 1 地域包括・在宅介護支援センター相談協力員：
地域において、要援護高齢者等に対する保健福祉サービス及び支援センターの紹介等を行うため市長より委嘱
- * 2 地区社会福祉推進協議会（地区社協）：
小地域における住民の助け合い・支えあい活動をすすめるための組織。区長・民生委員児童委員・福祉推進員等で組織されている。
- * 3 生活支援コーディネーター・協議体：
住民が主体となった支え合い活動を推進し、地域全体で高齢者の生活を支える体制づくりを行う。

運営協議会でご意見をいただきたい課題

地域課題	認知症の症状があっても、住み慣れた地域の中で自分らしく暮らし続けることができるためには、周囲や地域の理解と協力が必要と考えられる。
現状	認知症講演会や認知症サポーター養成講座・認知症カフェ等を開催し、認知症に関する理解促進活動を行っているが不十分な状態
検討課題	地域の方に認知症に関する理解を深めていただくには、どのような方法が望ましいか。

地域課題	認知症の方が気軽に出かけられる場として認知症カフェを開催しているが、認知症初期の方の参加が少ない現状がある。
現状	認知症カフェには、認知症初期の方（認知症の恐れのある方や認知症の診断はされたが介護保険のサービスを利用する段階ではない方）の居場所づくりとしての意義もある。 現在は個別の声掛けや、チラシの配布などで参加勧奨を行っているが、地域包括支援センターでは認知症初期の方を把握することが難しいため、適切な参加勧奨が行えていない。 また、初期の認知症の方は「私の行くところではない」など参加に関して抵抗がある様子がみられる。
検討課題	認知症初期の方の把握方法について。 認知症の方が参加しやすいカフェのあり方について。

地域課題	「8050」問題に早期に対応するためには、生活困窮が生じるリスクのある方をあらかじめ把握しておく必要がある。
現状	地域包括支援センターでは、同居家族のある方は実態把握訪問の対象としていないため、支援が必要なケースの場合、早期発見が難しい。 高齢の親の介護が必要となった時に、子どもが介護が出来ず虐待で発見されるケースがあるため、早期の発見が望まれる。
検討課題	民生委員さんや地域の方が、「8050」問題のリスクがある方を発見した場合に、地域包括支援センターに連絡していただく体制の整備について